

朝の詩  
 隙間風  
 茨城県結城市  
 小林 キヨ子  
 67

みゆしのメスは  
 一生みの中で、  
 何を  
 思っているのだろう

# 産経新聞

平成27年(2015)日刊25922号  
**2/19** [木] 雨水  
 産経経済新聞(サンケイ)  
 THE SANKEI SHIMBUN  
 発行所 ①産経経済新聞東京本社2015  
 〒105-8077東京都千代田区大手町1-7-2  
 ②東京(03)3231-7111 (大代表)

購読のお申し込み 0120-70-3034  
<http://reader.sankei.co.jp/reader/>  
 配達・集金などのお問い合わせ 0120-34-4646  
 紙面・記事へのご意見・ご質問 03-3275-8864  
 (平日9時~18時、土曜~17時、日祝日休み)  
 u-service@sankei.co.jp  
 産経ニュース <http://www.sankei.com>

滋養強壮  
 虚弱体質  
 Wakunaga  
**キョーレopin**  
 キョーレopin(牛乳) 医薬品  
 プレゼントキャンペーン実施中  
 お問い合わせは0120-39-0971  
 詳しくは <http://www.wakunaga.co.jp>

# 白衣の異才 ミドリムシ提案

## BANTOU 番頭の時代

第2部 「飛躍」を生み出す

其の一▼▼ ユーグレナ

鈴木健吾取締役  
 福本拓元取締役

沖縄県・石垣島、南国と  
 はいえ冬の肌寒さを感じる  
 日だったが、ベンチャー企  
 業「ユーグレナ」の研究開  
 発担当取締役、鈴木健吾は  
 上気した顔で、東京・六本  
 木の本社に電話をかけた。  
 「やりました。ブルが  
 ミドリムシでいっぱいにな  
 りました」  
 培養に使う直径30ミリのプ  
 ール。これまでは何回実験  
 を重ねても、雑菌で培養液  
 が白や赤に染まっていた。  
 だが、この日見たプールの  
 培養液は、まるで濃茶のよ  
 うに深い緑一色に染まっ  
 ていた。

平成10年	創業者の出雲充がバングラデシュを訪れる
12年	出雲に後輩の鈴木健吾がミドリムシ(学名・ユーグレナ)を紹介
17年 8月	出雲、鈴木、福本拓元の3人が中心になって、ユーグレナ設立
12月	世界で初めてミドリムシの食用屋外大量培養に成功
18年 1月	出雲を受けていたライブドアに東京地検の強制捜査が入る
20年 5月	伊藤忠商事からの出資が決まる
22年 5月	ミドリムシからのバイオジェット燃料製造に関する共同研究を日立製作所やJX日鉱日石エネルギーとスタート
24年 12月	東証マザーズに上場
25年 10月	バングラデシュに初の海外拠点を開設
11月	経団連に入会
26年 12月	東証1部に昇格
27年 1月	中国に子会社を設立すると発表



「本当か。うまくいった  
 のか」  
 知らせを受けた社長の出  
 雲充の表情も、驚きから喜  
 びに変わった。平成17年12  
 月16日。この日は、ミドリ  
 ムシの学名(ユーグレナ)  
 を社名に冠した同社が、世  
 界で初めて屋外の培養プ  
 ールでの大量培養に成功し  
 た記念すべき日となった。  
 出雲の掲げた「ミドリム  
 シで世界を救う」という壮  
 大なビジョン。鈴木は研究  
 者として、そのビジョンを  
 現実のものにした。研究者  
 番頭だ。

藻の一種のミドリムシ  
 は、動物性・植物性の栄養  
 素を豊富に含み、栄養補助  
 食品の原料となるほか、ジ  
 エット燃料の原料となる油  
 脂を光合成で作ります。た  
 が、バクテリアなどの外敵  
 に弱く、それまでは無菌室  
 で育てるしかなかった。量  
 産化に不可欠な、屋外の  
 大量培養という課題は大き  
 なハードルだった。

この課題を克服したのは、  
 逆転の発想だ。出雲は「そ  
 れまでの培養は、蚊に刺さ  
 れるような蚊帳を何重にも  
 張るようなもの。鈴木も  
 『ならば蚊取り線香を置い  
 たらいい』と考えたと説  
 明する。  
 ミドリムシしか生きられ  
 ないくらいに二酸化炭素濃度  
 を高め、培養液の濃度を委  
 える。鈴木は「湖でミドリ  
 ムシだけ発生する環境があ  
 る。自然がなせるなら、  
 その環境を人が整えれば再  
 現できるはずだ」と信じ、  
 おまたの試行錯誤を重ね  
 た。

「どんなに難しい課題が  
 あっても、常人には考えつ  
 かないような切り口。いわ  
 ば答えを導く。補助線。を  
 引いて解決してしまえ」  
 出雲は、いまま研究者と  
 しての鈴木に全幅の信頼を  
 寄せる。  
 出雲と鈴木は、ビジネス  
 コンテントなどを企画する

## 試行錯誤 ビジョン下支え

決したいと考えていた出雲  
 に、ミドリムシを提案した  
 のも鈴木だ。  
 昨年12月3日。ユーグレ  
 ナが株式公開(IPO)か  
 ら約2年というスピードで  
 東証1部昇格を果たした  
 夜、鈴木と出雲は上場に尽  
 力したメンバーらと東京・  
 恵比寿で会食した。慰労会  
 が目的だったが、話題はず  
 べにこれからの事業戦略に  
 移り、さながら経営会議の  
 雰囲気となった。  
 トップのビジョンを自ら  
 が持つ最先端の研究技術で  
 支え、社会に役立てる番頭  
 役に徹する。研究者然と白  
 衣をまとった鈴木は、重頭  
 をほころばせてこう振り返  
 る。  
 「過去より将来、いつの  
 間にか新しいスタートの決  
 り集みがあった」  
 (敬称略)

企業のナンバー2らに焦  
 点を当てた「番頭の時代」  
 第2部ではベンチャー企業  
 や中小企業を中心にトップ  
 を支える人たちの奮闘を紹  
 介する。

3面に続く

# BANTOU 番頭の時代

## 「世界救う」夢かなえる営業力

1面から続く

「私は営業で世界一を目指すしている。私に売れない物はない」

ユークレナのマーケティング担当取締役を務める福本拓元は、初対面の出雲元(同社社長)にこう大見えを切った。平成16年7月、中国・青島で開かれたベンチャー企業の交流会でこの会だ。

創業準備を進めていた出雲にとって、どうやってミッドリムシを使った商品を売

るかが懸案だった。家業のクロレラ栄養補助食品販売で実績を上げ、中国で製造工場の新設を検討していた福本の営業力は、魅力的だった。「ミッドリムシは『虫』だと思われていて、なかなか商品を買ってもらえない。あなたの腕試しにはびった

「研究番頭」の鈴木健吾と「営業番頭」の福本の両輪を得て、同社は動き始めた。17年の夏だった。

言葉通りに黒字化

中国から帰国後、出雲はユークレナの設立に参加するつもりで、福本を口説いた。だが、福本はなかなか首を縦に振らなかった。出雲は本人の承諾を得る前

に、福本を役員にすえた。創業企画書の印刷を始めた。それを聞いて、福本もついに折れた。「自分は営業マンとして何でも売れるが、売れなかつた。ミッドリムシが偽物だといつことだ」

「ノーゼロデー」。福本は売り上げがゼロの日は会社から帰らないという決まりを自分に課した。営業がうまくいかなかった日は、商品を買ってもらう

「次は四半期で営業成績。家業の取締役との業務を解

### 果たすべき役割徹底すべし

企業の成長ステージによつて経営幹部の果たすべき役割は異なる。創業間もない企業では、また誰も実現し得ない。未来を大きく語ることで、社長と、現実感をもってビジョンを実現する「BANTOU」の役割分担が、その後(ビスグロー代表 杉村知哉)

消し、ユークレナに注力してほしいと出雲に頼まれていた。退路を断った必死目撃は、福本の決意の表れだ。

「ノーゼロデー」。福本は売り上げがゼロの日は会社から帰らないという決まりを自分に課した。営業がうまくいかなかった日は、商品を買ってもらう

「次は四半期で営業成績。家業の取締役との業務を解

「研究番頭」の鈴木健吾と「営業番頭」の福本の両輪を得て、同社は動き始めた。17年の夏だった。

### バス実証実験着手

「ミッドリムシでこういうことができないか」

「こんな商品が欲しいんだが」

ユークレナ本社には、連日のように取引先や消費者からの相談や要望が舞い込む。出雲はその内容を精査し、2人の番頭に具体的な対応を任せる。「鈴木

も福本も一回も「無理だ」とか「できない」と言わない。本言にありがたい」と出雲は言う。

研究者、営業マンとして類いまれな能力を持つ2人は、口をそろえて「聞く人をその気にさせる能力がある」と出雲を評する。大買

「ミッドリムシが世界を救う」と訴え、世界の食料・エネルギー問題を解決しようと呼びかける出雲のリーダーシップに2人は魅了された。

同社はすでにミッドリムシの油を混ぜたバイオ燃料でバスを走らせる実証実験に着手し、30年にはミッドリムシ由来のジェット燃料で飛行機を動かす技術を確認するという。若いカリスマと

番頭のトイロイカ体制が、世界を変えようとしている。

(敬称略)